



Leaf

平成21年2月
盛岡市三本柳6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 沼里 進

盛岡赤十字病院医療連携だより No.16

基本理念

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



+ 新装なった新生児治療室

小児科部長 高野 長 邦

昨年11月25日、従来7床稼動で手狭な環境であった新生児治療室が、場所を旧産科棟母親学級に定床10床の広くすっきりした環境に移転いたしました。

近隣産科病院の減少に伴う増加する当院の1000件を超える分娩、帝王切開出生児の増加に伴い、約330件の新生児入院に対応するため、小児科として努力して参りましたが、医療安全対策、院内感染の防止等様々な問題点が内在する状況となり、病院と検討を重ね、御理解をいただき、今回の改築移転となりました。

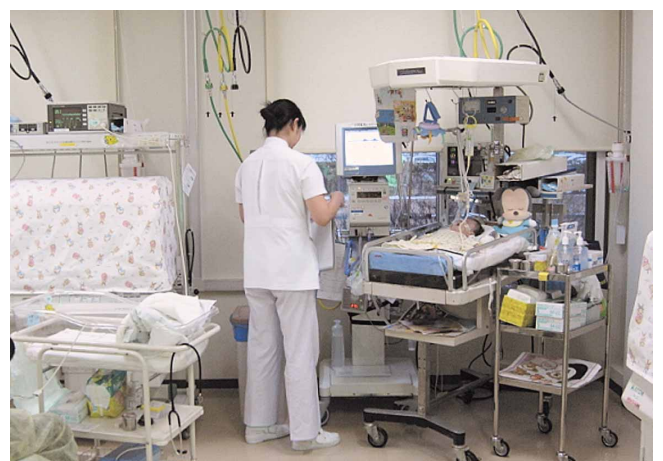
しかし新生児集中治療室にするには、認定基準や人員の確保の困難さなど克服できない問題も有り、見送りいたしました。

出来る限りの医療提供をするために、以下のような基準を設けました。

基本的に収容する児は、突発的な状況のない限り、在胎33～34週の児以上とし、母体搬送やハイリスク児については岩手県周産期母子センターと協議すること、心疾患のある新生児についても医大循環器センター、NICUと協議する。

人工呼吸器の使用は同時に2例までとするなどです。
器の整備はできましたが、内容の伴った新生児医療を提供するには、まだまだ解決しなければならない問題は山積しております。

少しずつ解決に向けた努力するつもりですので、各方面の御援助を賜りたく思っておりますので、今後ともこの新しい新生児治療室を宜敷くお願い致します。



平成20年度三つの医療機器整備

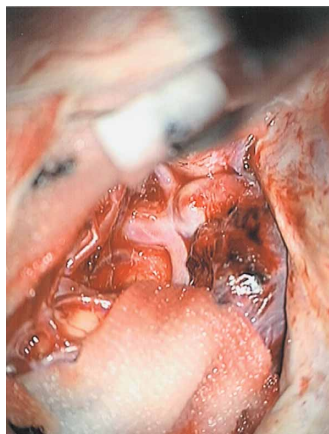
当院では、診断・治療の向上を目指し、例年に増した設備投資を実施、次の大型医療機器を整備し既に稼動を始めております。主な整備機器について、担当診療科から紹介をさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

より確実に安全な手術が可能な最新型手術顕微鏡を整備

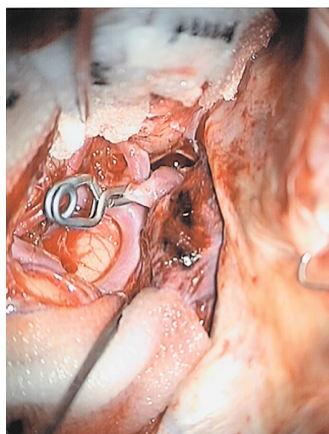
第一脳神経外科部長 久保直彦

この度、当院では最新型手術用顕微鏡を整備しました。整備した手術用顕微鏡はカールツァイス社製OPMI Penteroで、これまで使用していたもの（同社製）に比べ観察されるイメージの焦点深度、明るさや操作深度が格段に改良されています。また顕微鏡の操作性も向上しています。

同型の顕微鏡は県内の他施設に2台導入されていますが、当院で整備したものは、これにオプションとして手術中に血管造影が可能な装置を装備した県内初のものです。これは特殊なフィルターを組み込むことで、眼科で蛍光眼底撮影に用いるICGを静脈注射し、これが脳内の血管に流れていくのを撮影し、mm以下のレベルの脈間の流れまで観察することが可能です。これを用いることにより、例えば脳動脈瘤手術において脳動脈瘤がクリップで完全に閉鎖されているか、クリップにより保存すべき血管の閉塞、狭窄が起きていないか、などの観察が容易に可能で、より確実に安全な手術を行うことができます。



肉眼写真(左上下)と手術中 ICG 血管撮影画像(右上下)
(下がそれぞれネッククリッピング後)
脳動脈瘤とその周囲の血管がmm単位まで観察されています。



心血管撮影装置の更新

循環器科部長 市川 隆

ついに当院のシネアンジオ装置が新しくなりました。

東芝製 INFX-CB0404A です。

今まで使用していた装置は平成4年に導入されたもので、じつに16年にわたり活躍してくれました。この間、シネフィルムの廃止、画像のデジタル化があり、治療面では血管内カテーテル治療の進歩がありました。新しい装置で見る画像は鮮明であり、以前と比べると隔世の感があります。今後は、ご紹介いただいた患者さんのシネアンジオのCD-Rも報告書に添付可能ですので、必要な時は御連絡ください。

今後ともよろしくお願いいたします。

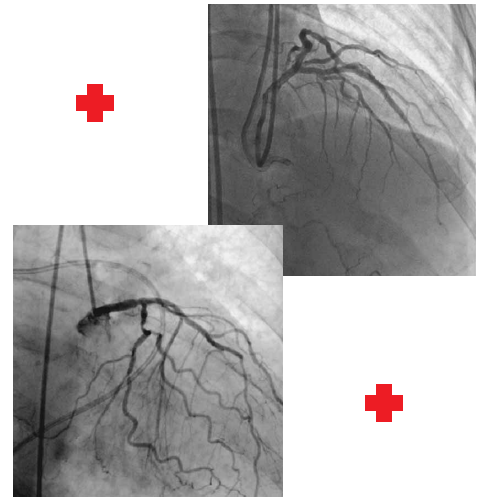


INFX-CB0404Aによるアンジオ画像(冠動脈造影)



【より鮮明な造影画像】

画像はもとより、一連の検査映像についても以前より格段に飛躍しました。
検査データの取扱いに手間がかからず、CD-R等でのデータ提供が可能となりました。



磁気共鳴診断装置(MRI)更新のお知らせ

第一放射線科部長 角原 紀義

第二放射線科部長 阿部 知博 血管内治療科部長 廣瀬 敦男

当院ではこれまで1.0テスラおよび0.5テスラの計2台の磁気共鳴診断装置(MRI)を使用しておりましたが、このたび0.5テスラ機を最新の高磁場装置1.5テスラ機に更新いたしました。新しい装置はGE横河メディカルシステム社製のSignaHDxで、2008年10月から稼働をはじめています。

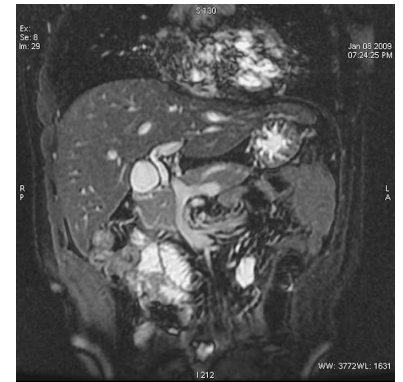
この装置には数多くの特長がありますが、まず磁場強度が強くなったことによる、信号対雑音比の向上があります。このことは、ルーチン検査の高速化につながり、患者さんの肉体的負担が軽減されます。また、従来以上の高精度撮像や、体幹部の拡散強調画像(悪性腫瘍の検出)、広範囲の三次元ダイナミック造影検査(両側乳腺の同時撮像など)、関節軟骨の描出、MRスペクトロスコピーなどが新たに可能となりました。

なお、2009年初めには、東北地方で初めてとなるSignaHDxtへのバージョンアップを予定しており、さらなる高速化、高画質化が図られる見込みです。

MRIはすべて外来で検査可能ですので、検査のご希望がありましたら放射線科外来にご連絡ください。ご利用をお待ちいたしております。



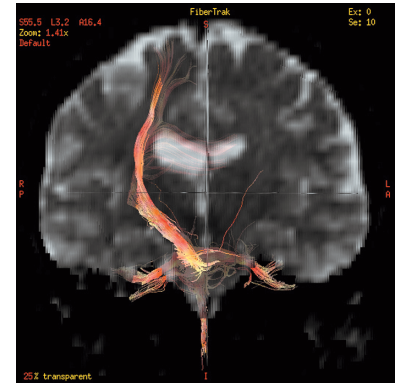
乳腺専用コイルを用いた両側乳腺(造影後T1強調画像、軸位断)



上腹部(T2強調画像、冠状断)



肩専用コイルによる右肩(T2*強調画像、軸位断)



拡散テンソル画像による大脳皮質連絡路の描出



退職いたしました

大和田 毅 (小児科副部長) 平成20年12月31日付

お世話になりました